

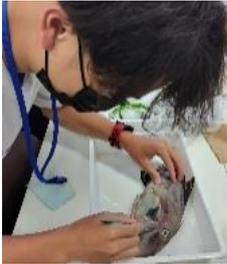
**令和5年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット  
第1回地域課題ワークショップ**

日 時	令和5年7月22日(土) 10:00~16:30 (9:50受付)
場 所	神戸市漁業協同組合須磨浦漁友会集会所、須磨海岸
参加者	神戸市立六甲アイランド高校(3)、兵庫県立御影高校(4)、兵庫県立星陵高校(3)、 兵庫県立農業高校(2)、兵庫県立加古川東高校(2)、山陽学園高校(3)、 広島県立広島国泰寺高校(3)、兵庫県立尼崎小田高校(21) 生徒41名、教員18名、来賓7名、大学院生5名 合計71名
内 容	<p>高校生サミットの取組のスタートとして、まず、テーマの共有を目的にワークショップを行った。海からの視点だけの環境でなく、海と山のつながり、環境のつながりの視点で考えていく基礎作りを行った。午前中は海と山のつながりの背景的知識を学ぶため「森と海の手ながり」、「神戸の山の活動を通して」、「漁師から神戸の海の問題について」の3つの講義を受けた。</p> <p>午後の須磨海岸での実習では、3班に分かれてそれぞれ3種類の実習(プランクトン採集、砕波帯ネットによる生物採集、セディメントトラップ)を行った。</p> <p>その後、集会所に戻り、各地点での採取の結果を観察・共有し、須磨里海の会会長の吉田様よりまとめの話をいただいた。本日の実習について、グループディスカッションをして振り返りを行った。</p>
生徒の感想	<p>今まで山と海はつながっているけれど、間接的にだと思っていた。こんなにも深く、直接的につながっていることを知って驚いた。</p> <p>今までずっと透明で透き通った海がきれいな海だと思っていたが、魚が育っていくために必要なプランクトンなどを考えると緑色の海がよいということを知った。</p>

写 真	
	
プランクトン採集	砕波帯ネットによる生物採集
	
セディメントトラップ	研修のまとめ

**令和5年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット  
第2回地域課題ワークショップ**

日 時	令和5年9月3日（日） 10:00～16:30（9:50受付）
場 所	神戸市漁業協同組合須磨浦漁友会集会所、須磨海岸
参加者	神戸市立六甲アイランド高校（3）、兵庫県立御影高校（3）、兵庫県立星陵高校（3）、兵庫県立農業高校（2）、兵庫県立加古川東高校（3）、山陽学園高校（3）、広島県立広島国泰寺高校（3）、兵庫県立尼崎小田高校（19） 生徒39名、教員19名、来賓5名、大学院生3名 合計66名
内 容	<p>須磨海岸での実習では、集会所で須磨里海の会の吉田様から実習についての説明を受け、3班に分かれてそれぞれ3種類の実習（小形地曳網の曳網・小形地曳網の採取物の選別・漂着物調査）を3地点で行った。</p> <p>その後集会所に戻り、須磨里海の会や須磨浦漁友会の方々の指導や助言を仰ぎながら地曳網による採集物と漂着物の選別作業を実施した。各班の集計を一覧表にまとめると、採集した場所ごとの特徴、その要因についての説明を受けた。また魚の解剖実習を行い、胃や消化器官の内容物調査を行い、海洋の環境を考えることができた。</p> <p>最後には、須磨海岸の変化について、講義を受けた。近年水温の上昇などの影響から、海底に生息するアオモの減少が見られ、これが海の生態系に悪影響を与えていることを学んだ。</p>
生徒の感想	<p>プラスチックゴミに沢山の貝がびっしりと生えている様子に驚いた。目に見える形でプラスチックゴミが生物に影響を与えている様子を間近で見るとゾッとした。</p> <p>地球温暖化で水温が上昇するとアマモが減り、またそれによってそこに住んでいた魚も減ってしまう。このように生き物どうしのつながりはどこも崩れては行けないものだと感じた。</p>

写 真	
	
小形地曳網の曳網	砂浜漂着物調査
	
消化器官内容物調査	ディスカッション・発表

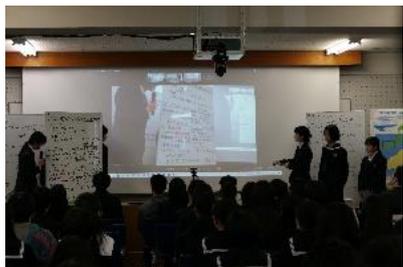
**令和5年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット  
第3回地域課題ワークショップ**

日 時	令和5年10月22日（日） 10:10～16:40（10:00受付）
場 所	兵庫県立人と自然の博物館、三田市南公園（ブイブイの森）
参加者	神戸市立六甲アイランド高校（3）、兵庫県立御影高校（3）、兵庫県立星陵高校（3）、 兵庫県立農業高校（2）、兵庫県立加古川東高校（3）、広島県立広島国泰寺高校（3） 兵庫県立尼崎小田高校（18） 生徒35名、教員16名、来賓4名、大学院生3名 合計57名
内 容	<p>午前はブイブイの森での里山実習を行った。実際に里山に入り、竹林や常緑樹林が増加する現状を学び、里山に人がどう関わるべきか考えるよい機会となった。</p> <p>午後は人と自然の博物館で森林土壌学の講義を受け、土壌の形成などについて学んだ。また、館内の見学もあり、午前中の実習で学んだことをより深めることができた。</p> <p>最後にグループディスカッションで本日の学びについて議論し、発表を行った。海からの視点だけでなく、山から環境を考える視点を学ぶことができた。</p>
生徒の感想	<p>人が森林伐採をするのはあまり良くないというイメージが強かったけど、実際は悪い影響だけではないということが分かった。人が定期的に木を伐採することによって、竹の成長を抑えたり背の高い木が増えることを抑制したりする効果があること、それによって光が必要な植物やそれに依存している動物の生態系を守ることができていたということを学んだ。</p>

写 真	
	
里山実習 1	里山実習 2
	
講義：森林土壌学	ディスカッション・発表

**令和5年度 地域課題解決に取り組む高校生サミット～兵庫から日本を考える～  
(第13回瀬戸内海の環境を考える高校生フォーラム)**

日 時	令和5年11月19日(日) 10:00～16:30(9:30受付)
場 所	兵庫県立尼崎小田高等学校
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来校参加者 神戸市立六甲アイランド高校(3)、兵庫県立御影高校(4)、兵庫県立星陵高校(4)、兵庫県立農業高校(4)、兵庫県立加古川東高校(16)、広島県立広島国泰寺高校(4)、兵庫県立尼崎北高校(3)、兵庫県立伊川谷北高校(3)、兵庫県立姫路西高校(2)、兵庫県立三田祥雲館高校(3)、兵庫県立篠山鳳鳴高校(1)、兵庫県立香住高校(3)、和歌山県立海南高校(2)、兵庫県立尼崎小田高校(32) 生徒名84名、教員38名、来賓30名、大学院生等5名 合計157名</li> <li>・オンライン参加者 参加校3校、来賓2名 合計14名</li> </ul>
内 容	<p>午前は、各校の課題研究のポスター発表と口頭発表(+オンライン発表)を行った。様々な高校間や、大学、企業、行政の方との交流を行い、課題研究の議論を深めた。</p> <p>午後は「海と山のつながり」をテーマに3つの論題についてのボードディスカッション(+オンラインディスカッション)を行い、地域課題解決のために何ができるか高校生からの「提言」を考え、全体報告会で共有、発信した。</p>
生徒の感想	<p>自分たちと似ている研究から全く違う研究まで幅広い範囲の研究が見られてよかった。自分たちの研究についてもアドバイスを頂き、参考にすることができた。</p> <p>里山・里海について他校の生徒と交流をすることによって、新たな考え方や、里山・里海の問題の対策について考えることができ、とても有意義な時間だった。</p>

写 真	
	
ポスターセッション	ボードディスカッション
	
報告会	集合写真

## 高大連携フォーラム in 京都大学

日 時	令和5年12月23日(土) 10:30~14:50 (10:00受付)
場 所	京都大学吉田キャンパス 人間・環境学研究科大講義室
参加者	神戸市立六甲アイランド高校(3)、兵庫県立御影高校(4)、兵庫県立星陵高校(2)、 兵庫県立農業高校(4)、広島県立広島国泰寺高校(4)、兵庫県立姫路西高校(2)、 山陽学園高校(4)、兵庫県立尼崎小田高校(25) 生徒48名、教員19名、京都大学教授・大学生・大学院生等29名 合計96名
内 容	午前に高校生サミットの取組紹介、ポスターセッションを行い、それについて京都大学の大学院生・大学生と意見交換会を行った。京都大学の学生へ向けて発表を行い、アドバイスをいただく貴重な機会となり、課題研究の議論をさらに深めることができた。 午後はこの一年間の高校生サミットの一連の取り組みを振り返り、どの様なことが学べたか、さらに学びたいことをまとめた。
生徒の感想	大学生や先生方からアドバイスやたくさんの感想をいただき、自分達だけで取り組んでいる分、考えが固執してしまっているところがあったけれど、目的や成果が動機にどうつながっているのか、意見を聞いてもう一度考え直すきっかけとなった。 高校生サミットの参加生徒で、具体的な活動を行う計画を立てているなど、とてもコミュニケーション力があると思った。自分もこの取り組みに参加して毎回知らない人たちとコミュニケーションをとることで、コミュニケーション力が上がったと思う。

### 写 真



高校生サミットの取組紹介



ポスターセッション



意見交換会



一年間の振り返り